

## 甲州道中



▲市内裏高尾町 駒木野宿の碑

市内の中央を東西に走る大きな道、国道20号（甲州街道）。江戸時代には、甲州道中と呼ばれていました。テレビや映画の時代劇で見るとような道中シーンが、ここ八王子でもみられていたのです。わらじをはき、笠をかぶり、旅かっぱをはおった旅人たちが歩いていました。市内には、わずかですが、旧道も残っています。

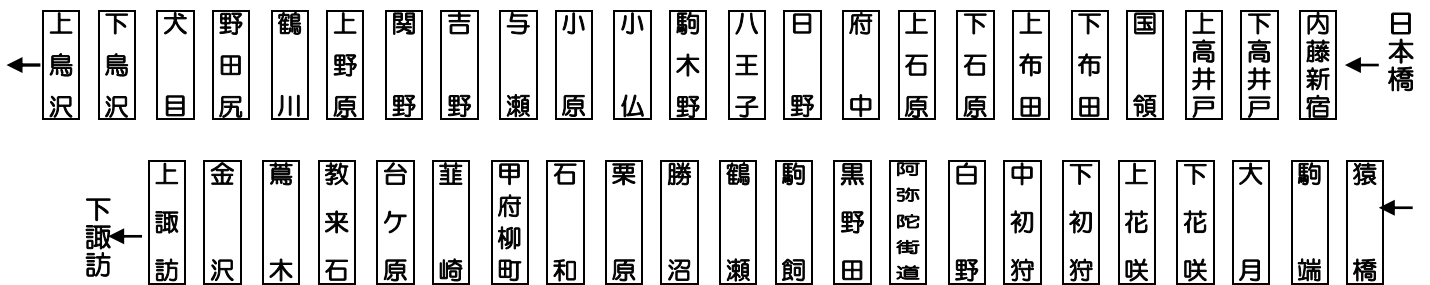
さあ、甲州街道について調べてみましょう。

## 江戸の五街道

天下をとった徳川家康が、慶長8年（1603）江戸に幕府を開くと、日本橋を中心に道路と宿駅（街道の便利なところであって、とまる宿や人や荷物を運ぶための馬・かごなどの乗り物を用意してあったところ）の整備が進められました。道路の中でも、5つの主要道路は、江戸の五街道と呼ばれました。江戸と京都をつなぐ東海道と中山道、江戸と日光をつなぐ日光道中、日光道中と宇都宮（栃木県）でわかれ白河（福島県）までいく奥州道中、そして、甲州道中です。

## 甲州道中

甲州道中は、江戸の日本橋を出発点として、八王子、甲府を経て中山道と合流する下諏訪まで、宿数45、道程は約53里（208.5km）の街道です。最初は、甲州海道と呼ばれていましたが、正徳6年（1716）海端の道ではないとの理由で、甲州道中と呼ばれるようになりました。明治時代になると道路の法令により国道に指定され、後に甲州街道と呼ばれるようになりました。



武田家の領地でもあった甲州は金の産地でもあり、江戸のうしろを守る大切な所とされ、幕府が直接治める天領となっていました。また、幕府は甲州街道を軍用道路として重要視していた見方があり、いざというとき、八王子千人同心を引きつれて甲府城にたてこもり、再起を図ろうとしていたようです。

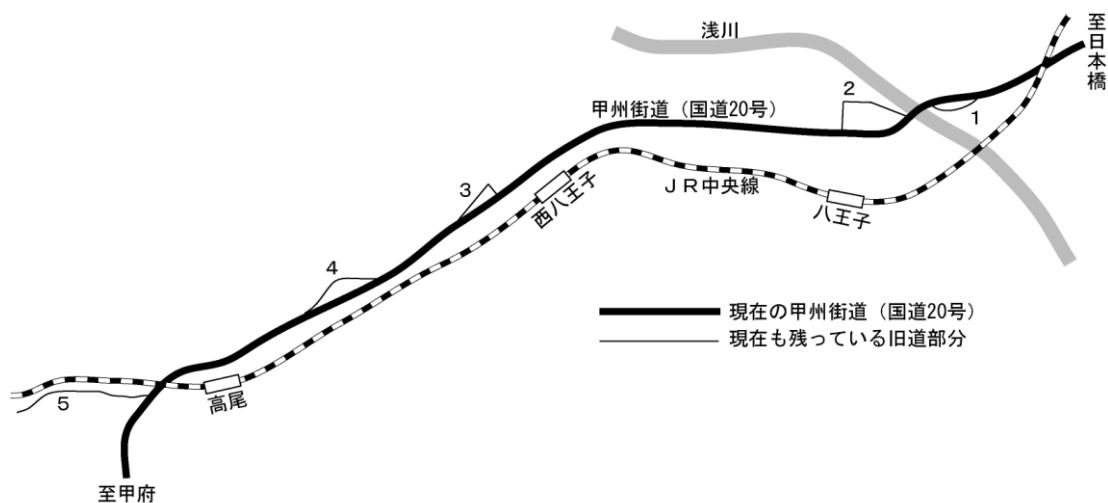
## 甲州道中を通行した人々

参勤交代のために通行した大名は、高島藩、高遠藩、飯田藩の3藩でした。公用通行では、他には、甲府勤番と八王子千人同心がよく利用していたようです。茶壺道中といって、宇治（京都府）の茶を江戸城に運ぶ行列もみられました。

商品経済が発展してくると、商品の運送や庶民の人々のために使われるようになり、富士登山の富士講、身延参りの身延講の人たちや、手紙などを運ぶ飛脚などの姿がみられました。残された道中日記によると江戸時代の人々は、1日にほぼ10里（約40km）を歩いていて、1日目のとまり宿として、八王子宿が利用されていることが多かったようです。江戸から下諏訪まで約5～6日間の旅でした。

## 市内に残る旧道<sup>きゅうどう</sup>

現在の甲州街道（国道20号）は整備され、道も広げられていますが、市内には、わずかに江戸時代の道筋（旧道）が残っています。昔の旅人になったつもりで、歩いてみてはいかがでしょうか。



1. 大和田町<sup>おおわだまち</sup> 甲州街道の大和田町の坂を下りてまもなく斜左へ分かれる道。中程に馬頭観音（馬の頭をした仏像。馬の病気や安全を祈る）が残っています。

2. 新町<sup>しんちょう</sup> 大和田橋南詰交差点で国道20号と分かれ北大通り沿いに約350メートル進み、市立五中交差点を左斜めに進む道。途中の竹の花公園には、「一里塚跡」という石碑がたっています。一里塚というのは、江戸の日本橋を起点として一里（約4km）ごとに作られた旅人たちの道しるべのことです。一里塚は9m四方もある大きなもので、榎などがうえられました。この木陰で旅人たちは、休息をとっていたようです。



▲一里塚跡

3. 並木町<sup>なみきちょう</sup> 長房団地入口の信号を右折し、約50m先で交差する左に入る道。

4. 東浅川町<sup>ひがしあさかわまち</sup> 多摩御陵参道入口交差点から200m程西に進み、国道20号から右手に分かれる道。

5. 裏高尾町<sup>うらたかおまち</sup> JR中央線のガードをくぐり西浅川交差点を右折し、駒木野のバス停から小仏峠頂上<sup>こぼとけとうげちょうじょう</sup>に向かう道。関所もここにおかれていました。関所では、役人が通行する人や荷物の検査をしました。特に、「入り鉄砲に出女」といって、江戸の町に鉄砲が

入ること、人質である奥方たちが江戸からでることを、厳しくとりしまりました。旅人は、少し丸い丸石に関所手形を出して乗せ、手前の平石に手をついて頭を下げました。



▲史跡小仏関跡

手形石と呼ばれる丸石と  
手付石と呼ばれる平石

### 甲州街道いちょう並木

追分から高尾駅北口までの、約4.2 kmの両側に続く約760本のいちょう並木。昭和2年に多摩御陵の造営記念に植えられました。日本三大並木のひとつといわれ、八王子のシンボルになっています。いちょうは、昭和51年〈1976〉には「市の木」に指定されています。秋には黄金色に染まり、いちょうまつりが行われています。

## 調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べるとき、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。

- ※ 最初に書いてある数字は、本の背表紙についている分類（ラベル）番号です。
- ※ ☆印のついていているものは、特に小学生におすすめのものです。

- 00-29 甲州道中 東京都教育庁生涯学習部文化課／編 1998年  
旧道の様子を詳しく知るのにおすすめ
- 21-26 甲州道中を旅する 八王子市郷土資料館／編 1992年  
図や絵や写真など多くの資料がのっている。昔の旅の様子がよくわかる。
- ☆21-29 郷土みてある記 八王子市生活文化部広報課／編 1995年  
小学校の先生が、八王子の歴史や関係の深い人物や動植物、事柄を小学生にも分かりやすく解説したもの。
- 130-68 今昔三道中独案内 今井金吾／著 2004年  
現在の地図上に旧道が赤く表示されていて、道筋がわかりやすい。
- 130-72 甲州街道七十二景 「甲州街道七十二景」画集刊行会／編 1999年  
美しい絵と解説で構成されている。

### 街道と旅についてかかれた児童書

- ☆210 県別歴史シリーズ19 山梨県社会科研究会／編 1990年
- ☆291 わたしたちの日本 ふるさとの商業と交通 浅井得一／著 1985年
- ☆682 道は語る 西山妙／文 1976年
- ☆682 道の発達とわたしたちのくらし4 街道と旅 神崎宣武／著 1988年

甲州道中

**参考文献を所蔵している図書館 ※2015年12月現在**

表の中の○は貸出もできるもので、△は見たり、コピーしたりできます

タイトル	所蔵図書館					
	中央	生涯	南大沢	川口	北野	みなみ野
甲州道中	△	△				
甲州道中を旅する	△	△				
郷土みてある記	△	△	△	△		
今昔三道中独案内	○	○				
甲州街道七十二景	○	○	○	○	△	
県別歴史シリーズ19	○					
わたしたちの日本10 ふるさとの商業と交通	○		○	○		
道は語る	○					
道の発達とわたしたちの暮らし4		○				